

平成29年11月

# 三沢病院だより

医療まめ知識 【ダヴィンチを使った手術の話】

泌尿器科医長 福士 謙

手術支援ロボット

「ダヴィンチ・  
サージカルシステム」  
導入決定



ダヴィンチとは

ロボットと言われても、どんな手術器械なのかピンと来ない方も多いのではないのでしょうか。ダヴィンチは自動車工場のロボットのように自動で手術をしてくれる器械というわけではありません。



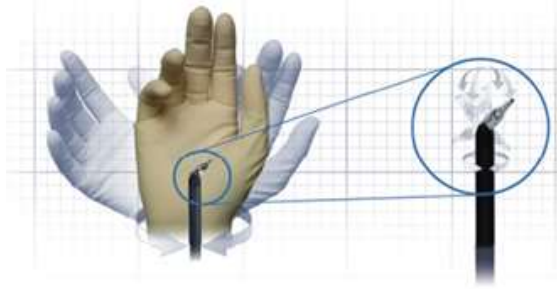
手動

新聞やテレビのニュースで耳にした方もいらっしゃるかと思いますが、三沢病院では最新の手術支援ロボット「ダヴィンチX」が導入されることになりました。従来機種を含めると現在東北6県に15台のダヴィンチが導入されており、青森県内では弘前大学医学部附属病院に2台、青森県立中央病院に1台の計3台が稼働しています。当院に導入される最新型の「ダヴィンチX」は県内初の導入で、東北でも東北医科薬科大学に次いで2番目の導入となります。

ダヴィンチ手術は、当院でも数多く施行されている患者さんの体に小さな穴を開けて行う腹腔鏡手術を発展させた手術です。ロボットアームが装着されているペイシエントカートと呼ばれる装置を患者さんとドッキングし、術者は患者さんから離れたコンソールと呼ばれる操縦席に座ってロボットを操作します。



ロボットアームの先端には人間の関節以上に自在に動く鉗子がついており、術者の手の動きを患者さんの体の中で完璧に再現できます。また、術野を撮影するスコープは3Dカメラになっていて、術者は患者さんの体内に入り込んで見られるかのように手術することができます。



## ダヴィンチの 適応疾患について

現在のところ、ダヴィンチの保険適応は前立腺癌と腎癌となっています。特に前立腺癌に関しては、開腹手術と比べ圧倒的に出血量が少なく、術後の回復も早いことから全国的にダヴィンチによる手術が主流となりつつあります。

前立腺癌は近年急速に増加し、2015年・2016年の男性のがん罹患率は前立腺癌が第1位となりました。このような状況の中、地域がん診療連携拠点病院である当院は、県内に先駆けて前立腺癌の放射線療法のひとつである密封小線源療法を開始するなど、前立腺癌治療の充実を図ってきました。今回、最新の「ダヴィンチX」を導入することで、さらに前立腺癌治療の充実を図ります。

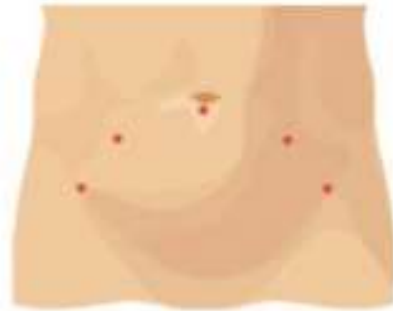
また、近々胃癌・大腸癌といった消化器癌、婦人科癌にも保

険適応が拡大されることが予想されており、三沢市近郊の多くの患者さんの治療に役立つものと期待されます。

### 前立腺がんの場合の例

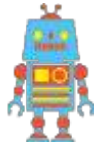


開腹手術における  
切開部



ダヴィンチ手術における  
切開部





## いつから ダヴィンチの手術が 受けられるの？

ダヴィンチの稼働開始は平成30年4月の予定です。これからの約半年間、弘前大学泌尿器科のサポートの元、スタッフのトレーニングや、認定見学施設である弘前大学医学部附属病院での研修を行い院内の準備を進めます。稼働開始当初は弘前大学泌尿器科、大山 力教授をはじめとした国内有数のロボット手術経験を持つ弘前大学泌尿器科の医師によって手術を行います。

癌という疾患の性質上、稼働開始以前に前立腺癌と診断された患者さんは従来の開腹手術での手術をおすすめする場合もありますが、健診で前立腺癌の精密検査を勧められた方や、前立腺癌が心配な方がおられましたら、当院泌尿器科にお気軽にご相談ください。

—VOL. 6—



## 研修医日記

初期研修医：吉田 宇洋

私は10月から整形外科におります。私が持っている教科書の初めの方にこうあります。

「整形外科は運動器の疾患を取り扱う。運動器とは体幹と四肢における個体の形態と運動に關与するすべての器官と組織の総称である」。よくわかりません。運動器って要するに骨と軟骨と靭帯と、筋、腱、血管、神経、皮下組織、です。

整形外科は外科と名前はついているので、手術ばかりしているような印象があるかもしれませんが、確かに手術は有効な方法の一つではあります。ほかにさまざまな治療法があります。リハビリテーション療法、保存療法、薬物療法、物理療法などです。

例えば転んで足の骨を折った患者さんに対して、必ずしも手術が必要かといえそうですが

はありません。患者さんの年齢、もともとの活動レベル、骨折の場所、程度、基礎疾患の有無、手術によって生じるリスク、そういう様々な要素を総合し、さらに患者さん本人の希望、家族の方の希望を踏まえた治療法を選びます。

これは整形外科に限ったことではありませんが、正しい治療法とは何か？という難しい問題をどの科でも考えさせられます。とにかく長生きできる治療法が正しいとされていた時代は過去にあったようですが、現在では少し違ってきます。Quality of life（生活の質）という視点は少し前から一般的になってきているようです。

整形外科で扱う「運動器」はこの生活の質を保つために必要不可欠とされています。歩くことができなくても、立つことができなくても、座ることができなくても、それがただちに生命の危機！とはなりません。

でも、寝たきりであるよりは、

座れたほうが、立てたほうが、歩けたほうが、やっぱりいいな」と「私は」思います。

今回はいつもにも増してまあまりのない内容になりましたが、なにはともあれ、私は日々勉強。骨折で入院したけれど、毎日リハビリを頑張り、日に日に歩ける距離が長くなっていく患者さんに力をもらっています。



# リハビリテーション室

## チーム紹介

リハビリテーション室では兼任医師 2 名、理学療法士 5 名、作業療法士 2 名、計 9 名が担当しています。



急性期リハビリテーションを中心に外傷・骨折・術後等を対象とした運動器リハビリテーション、脳梗塞・脳出血後遺症などを対象とした脳血管リハビリテーションを提供しております。また、リンパ浮腫やがん終末期の浮腫への対応も行っております。



歩行訓練用階段



温浴療法(上肢)



温浴療法(下肢)



昇降式平行棒



浴室練習台



リンパ浮腫治療室



温熱療法、超音波療法

平成 28 年 10 月より地域包括ケア病棟も開設され、急性期から回復期まで在宅復帰を目指し、より充実したリハビリテーションの提供を心がけております。